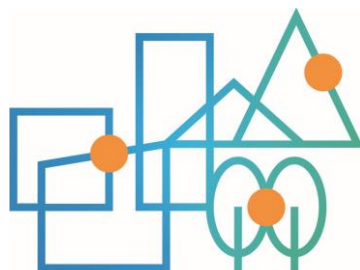


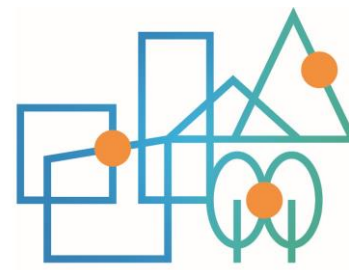
2025.2.13 第3回県市町村GX推進会議実務者会議

環境省「脱炭素先行地域」の取組について

環境と経済の好循環に資する再エネ導入施策



脱炭素先行地域
岩手県釜石市



Decarbonization
Leading Area
Kamaishi City, Iwate Pref

釜石市 産業振興部 国際港湾産業課
ゼロカーボンシティ推進室

 釜石市
KAMAISHI CITY

環境省

2

電力の供給スキーム

脱炭素先行地域の位置図・電力需要量/供給量

鵜住居エリア（片岸地区）

地域共生型太陽光発電
(2.5ha, 最大2,000,000KWh/年)



みのすけ沼（自然共生サイトへの登録申請予定）

地域新電力

中心市街地エリア

住宅・商業施設等
ワーケーション施設建設予定地
(サステナブルツーリズム拠点)



企業誘致用地

水産業関連施設群

沿岸南部CSのごみ発電からの再エネ供給（2,000,000KWh/年※ベースロード電源確保）

民生部門の電力需要量
100%
19,789,919 kWh/年

=

再エネ等の電力供給量
99.9%
19,753,919kWh/年

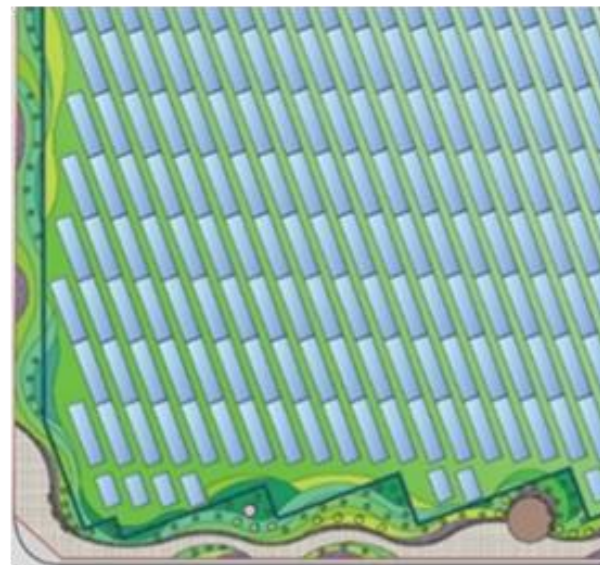
+

省エネ等の電力削減量0.1%
36,000kWh/年

主な取組①

「地域共生型太陽光発電」導入と自然共生によるグリーン復興

- ・再エネポテンシャルが高く、土地活用が課題となっている片岸地区にグリーン復興の象徴である片岸公園（みのすけ沼）への配慮策を講じながら「地域共生型太陽光発電」を導入するとともに片岸公園一帯を対象として自然共生サイトに申請
- ・発電事業の収益の一部を鵜住居エリアで展開する生物多様性保全の活動に充当し地域還元を図る
- ・一連の取組をエネルギー×環境×防災教育によるグリーン復興の象徴として国内外に発信



敷地レイアウト図

①エコスタック（ゴロタ敷）



②巣箱（シジュウカラ用）



③落ち葉溜め



④バードバス



主な取組①

サステナブルツーリズムのプログラム造成

本プログラムでは、自然共生サイトを目指す「みのすけ沼（片岸公園）」をフィールドとして、保全活動および自然の記録活動を体験することで、自然との共生を考えるプログラム。シーカヤックの楽しさと、調査・保全活動からの学びを合わせ、自然を守る重要性を考えるプログラム。

1

みのすけ沼を知る

みのすけ沼の過去と現在を知る。



2

みのすけ沼調査/保全活動

シーカヤックに乗り、水生植物や水生生物を捕獲、調査（場所、時間を指定）。他にガマの伐採による水質改善など。

3

地域共生型太陽光発電を知る

地域内での供給・需要といったエネルギーの地域内循環や、導入に伴う環境保全について学ぶ。

4

30by30を考える

生物多様性の重要性や自然との共生、持続可能な保全について考え、最終的に自身の環境行動を見直す。

主な取組②

持続可能な水産業振興

鉄鋼スラグを活用した藻場再生・ブルーカーボンの創出

- ・本市の課題である磯焼け対策として、地元漁協・鉄鋼業メーカーが連携
- ・地元漁協からの要望を受けて、日本製鉄(株)ビバリー製品に改良を加え、ウニの食害対策モデルを共同開発し導入予定。
- ・ワカメ・コンブの生産量増加、ウニ・アワビの漁獲量増加等により漁業振興とブルーカーボンクレジット創出(R5～実施)により、地域脱炭素に貢献

水産業のレジリエンス強化に向けた再エネ導入

水産業関連施設への再エネ供給（14施設、989kW）を行うことで、冷蔵冷凍庫の安定電源の確保をするほか、水産物の高付加価値化を進める。また、将来的には波力発電の電源を水産業分野に供給することを目指す。

主な取組②

サステナブルツーリズムのプログラム造成

海洋環境保全に向け、釜石独自で設計・実施しているブルーカーボンオフセット制度の取組みを学び、環境問題を考えるプログラム。また、漁船クルーズに乗船し、美しい景色を味わえるほか、かつて釜石の産業の中心であった漁業の現状、課題を学ぶことで、地方における産業振興のリアルを知ることができるプログラム。

1

ワカメ養殖場見学

現役漁師の漁船に乗り、ワカメ養殖場（ブルーカーボン生産現場）を見学。また、大槌湾の豊かな自然を体感。

2

漁業のリアルを知る

現役漁師との対話により、漁業の現状や、海洋環境の変化による課題などを知ること、地域課題である生業の継承を考える。

3

釜石版ブルーカーボンオフセットを学ぶ

行政、漁業従事者、大学、DMOで設計実施しているブルーカーボンオフセット制度の経緯や仕組み、課題を学ぶ。

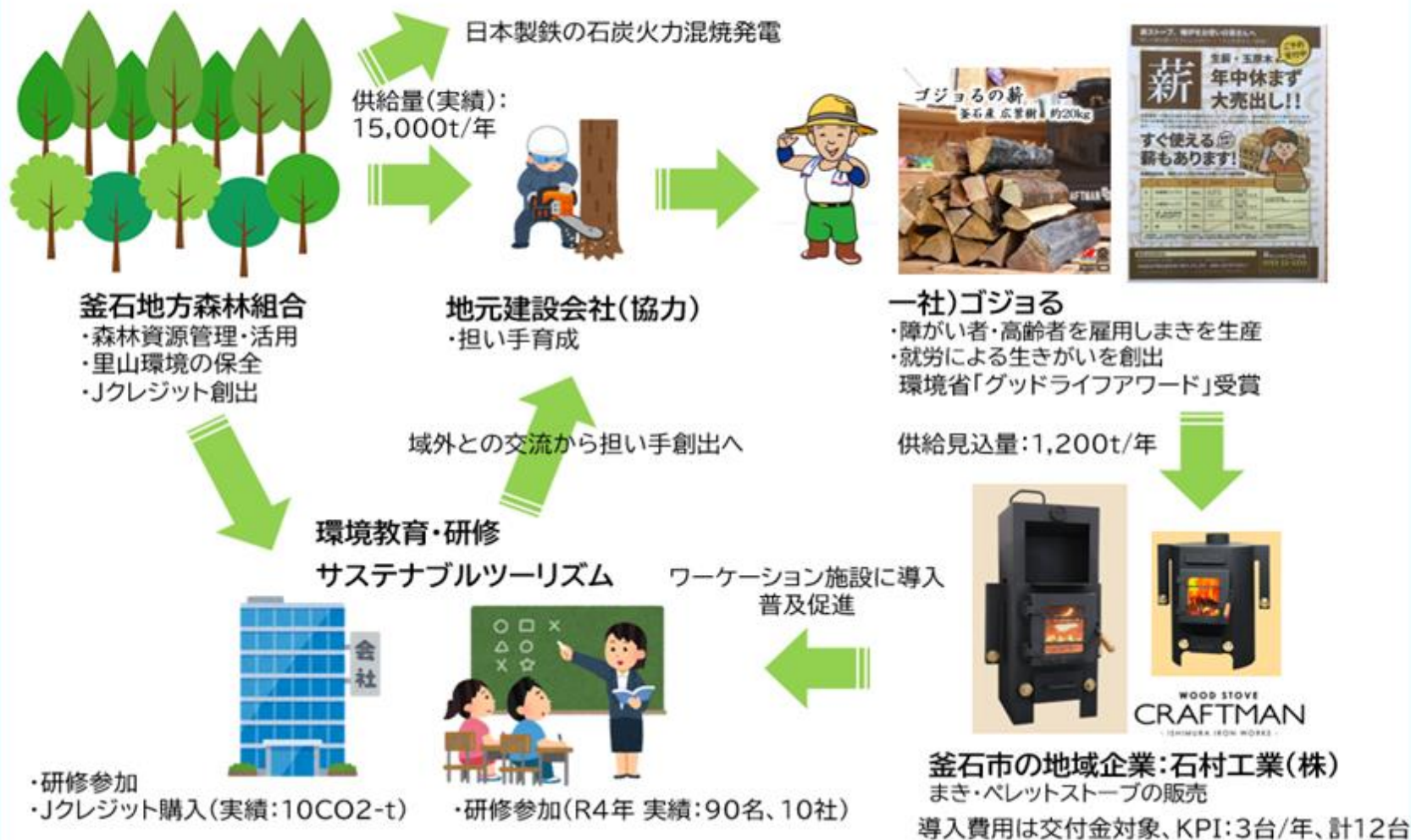
4

サステナブルツーリズムの取組を学ぶ

制度開始のきっかけのひとつである釜石におけるサステナブルツーリズムの取組みを知り、環境×観光が変える社会を考える。

主な取組③

林福連携による木質バイオマスの熱利用、薪ストーブ導入



主な取組③

サステナブルツーリズムのプログラム造成

本プログラムでは、釜石の山を知り尽くした「釜石地方森林組合」の協力のもと、実際の伐採現場で枝や葉を収集し、収集した木材から生成できる木質バイオマスエネルギーについて学ぶ。普段の生活の中でのエネルギー消費と向き合い、森林と自然を守るために普段の行動を変えることを目的としている。

1

林業体験 間伐材収集

森林組合職員による案内により、林業の現場に入り、伐採の際に発生した間伐材を収集。木質バイオマスについて学ぶ。

2

林業とSDGs

森林組合も大きく関わった「釜石鵜住居復興スタジアム」を視察。林業と復興のつながりを学ぶ。

3

森林組合の 取組

森林組合職員から、東日本大震災による被害と復興を知り、釜石におけるレジリエンスを学ぶ。

4

エネルギーの 大切さを知る

山で収集した間伐材が生成するエネルギー量を知り、日常で使用しているエネルギーの大切さを改めて感じる。